

1. 科目名 (単位数)	音楽実践演習 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1145						
2. 授業担当教員	赤塚 太郎									
4. 授業形態	演習、講義、実技		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」を履修していること。									
7. 講義概要	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。また、たとえ鍵盤楽器の経験があっても、子どもの歌を弾き歌いするなど保育実践に必要な演奏力の育成のために全学生が履修する必要がある。読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する、保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を理解し読譜ができる。 2. 弾き歌いをするための演奏力を身につける。 3. 歌うための発声を習得し、歌うことができる。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができる。 									
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コード奏に関する記譜の課題があります。提出期限を守って、取り組みましょう。 ・授業内で扱う内容(リズム譜、手遊び歌、子どもの歌の歴史、記譜等)を、よく復習しましょう。 ・1曲でも多く弾き歌いできるように、練習を積み重ねましょう。 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書は以下の3冊を用意してください。その他に必要な資料はその都度配布します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉原由利子、赤塚太郎 編著『あたらしいおんがくのおさらい にほんのわらべうたと、ヨーロッパのおとと、せかいのおと』共同音楽出版社、2022。 ・岡村弘、二宮紀子、杉原由利子 編著『これだけは歌って弾こう 子どもの歌 厳選 50 曲』共同音楽出版社、2017。 ・全音楽譜出版社出版部『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を理解し読譜ができるか。 2. 弾き歌いをするための演奏力を身につけたか。 3. 歌うための発声を習得し、歌うことができるか。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができるか。 1 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>				1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%	2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%	3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%									
2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%									
3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%									
12. 受講生へのメッセージ	この授業は「音楽」で学んだことをさらに発展させる実践演習です。具体的には音楽理論のより深い理解、そして確かな発声法と弾き歌いの演奏技術を高めることを目的としています。なお、本学の規定により3/4以上の出席を原則とし、遅刻や遅延については、累積回数が多いとそれらを認めない場合もあるので、注意してください。									
13. オフィスアワー	授業中に通知します。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション、音楽歴調査、教科書解説 音楽理論①楽譜の構造、音符と休符、拍、リズム、音高の理解度を確認 次回までの課題の説明	事前学習	春期の「音楽」で学んだことを復習する。							
		事後学習	音楽理論の復習及び課題曲に取り組む。							
第2回	音楽理論②音名と階名、音符と休符 子どもの歌① リズム譜① 記譜及び実技① 次回までの課題の説明	事前学習	教科書等を参考に、楽譜がどのような音符や休符で書かれているかを確認する。課題曲を練習する。							
		事後学習	音名・階名・音符・休符についての課題及び課題曲に取り組む。							
第3回	音楽理論③音程(音の幅)と三和音 子どもの歌② リズム譜② 記譜及び実技② 次回までの課題の説明	事前学習	課題曲を練習する。							
		事後学習	音程や三和音について、疑問点・不明点がないか、確認する。							
第4回	音楽理論④コードネームとコード奏 子どもの歌③ リズム譜③ 記譜及び実技③ 次回までの課題の説明	事前学習	コードネームの仕組みについて考える。							
		事後学習	コードネームの復習及び課題曲に取り組む。							
第5回	音楽理論⑤長三和音(メジャーコード) 子どもの歌④ リズム譜④	事前学習	長三和音(メジャーコード)とはどのようなものか、その構造を考え、取り組んでいる曲の中で該当する和音があるかを考える。							

	記譜及び実技④ 次回までの課題の説明	事後学習	課題曲に取り組む。
第6回	音楽理論⑥短三和音（マイナーコード） 子どもの歌⑤ リズム譜⑤ 記譜及び実技⑤ 次回までの課題の説明	事前学習	短三和音（マイナーコード）とはどんな和音かを、考えてみる
		事後学習	長三和音と短三和音について、授業で学んだ内容をまとめる。
第7回	音楽理論⑦転回形 子どもの歌⑥ リズム譜⑥ 記譜及び実技⑥ 次回までの課題の説明	事前学習	転回形はどのような仕組みになっているか、分析してみる。
		事後学習	課題曲の練習。
第8回	音楽理論⑧七の和音（セブンスコード）、総復習 子どもの歌⑦ リズム譜⑦ 記譜及び実技⑦ 次回までの課題の説明	事前学習	七の和音（セブンスコード）について考えてみる。音楽理論に関して、不明な点がないかを確認する
		事後学習	課題曲に取り組む。
第9回	音楽理論⑨変化した伴奏形 子どもの歌⑧ リズム譜⑧ 記譜及び実技⑧ 次回までの課題の説明	事前学習	左手の伴奏形に着目して楽譜を確認し、どのように作曲されているかを分析してみる。
		事後学習	変化した伴奏形についての要点を整理する。
第10回	音楽理論⑩音階 子どもの歌⑨ リズム譜⑨ 記譜及び実技⑨ 他の楽器に触れる① 次回までの課題の説明	事前学習	教科書等を参考にし、音階の仕組みについて考える。課題曲を練習する。
		事後学習	音階についての要点をまとめ、課題曲に取り組む。
第11回	音楽理論⑪調号、＃・♭のつく調 子どもの歌⑩ リズム譜⑩ 記譜及び実技⑩ 他の楽器に触れる② 次回までの課題の説明	事前学習	＃、♭がついている曲の譜面に目をおし、調号が何もつかない状態と何が違うのかを考える。課題曲を練習する。
		事後学習	授業で扱った「調性」について、内容を整理し、要点をまとめる。
第12回	音楽理論⑫カデンツ、総復習課題 子どもの歌⑪ リズム譜⑪ 記譜及び実技⑪ 次回までの課題の説明	事前学習	カデンツとはどのようなものか、調べてみる。
		事後学習	音楽理論の総復習課題及び課題曲に取り組む。
第13回	音楽理論「総復習課題」の解説 子どもの歌⑫ リズム譜⑫ 記譜及び実技⑫ 次回までの課題の説明	事前学習	課題を完成させる。
		事後学習	授業で扱った子どもの歌について、内容を整理し、要点をまとめる。
第14回	子どもの歌⑬ リズム譜⑬ 記譜及び実技⑬ 筆記テスト及び実技の発表①	事前学習	これまでに学んだ音楽理論の内容を整理し、各自の課題曲に取り組む。
		事後学習	発表内容をよく復習し、次週の発表に備える。
第15回	筆記テスト及び実技の発表②	事前学習	実技の課題曲に取り組む。
		事後学習	学期中に学習したことをよく復習する。